卒業メニュー (2)

（ある日の昼休み、「あたし」は、事情を知る同級生の足立と転校について話しているのを友達の桃に聞かれてしまいました。）

美貴がうちにやってきたのは、夕飯の支度を始めてすぐだった。

「どうしてずっと隠してたのよ、転校するなんて！」

足立の嘘で桃を完全にごまかせたとは思えなかったから、転校がばれることはある程度覚悟していた。だけど、もしばれて責められるとしても、明日の学校でだろうと予想していたから、いきなり美貴が訪ねてきたときはうろたえてしまった。

美貴は家に帰ったあと、桃からかかってきた電話で、あたしと足立の会話について聞いたらしい。それからすぐにおばあちゃんを問いつめて、あたしの転校を知ったのだという。美貴のおばあちゃんは、あたしのおばあちゃんと仲がよくて、引っ越しのことも最初から知っていたのだ。あたしから伝えるまで、美貴には内緒にしておいてほしい、とお願いしていたはずだけど、たぶん美貴は強引に聞きだしたんだろう。

玄関を開けると同時に、美貴の怒りの形相が目に飛びこんできた時点で、あたしは散々怒鳴られることを覚悟した。ところが美貴は最初に怒鳴ったきり、そのあとはずっと静かな口調で、あたしを責めるような言葉も口にしなかった。一生懸命気持ちをおさえて、冷静に話そうとしてくれているのがわかった。ほっとしていいような場面ではないのに、あたしはつい気が緩んでほほえんでしまった。

「もっと怒られるかと思ってた」

「怒ってるわよ」

美貴がキッとあたしをにらんだ。けれどすぐに眼差しを弱めてうつむく。

「だけど、わたしも転校のつらさは知ってるから。それに、わたしは友達に話をしてる暇もなかったけど、もしあったとしても、きちんと伝えられたかどうかわからないし。だから、怒鳴ったりしてごめんなさい」

「いいよ、あたしが悪いんだから。話さなきゃって思ってたんだけど、ずっと伝えられなくてごめんね」

美貴があたしのつらさをわかってくれたことがうれしかった。だけどあたしの胸の中には、そのうれしさもたちまち飲みこんでしまうほどの悲しみが広がっていた。

美貴たちを悲しませたくないから、なんて嘘だ。あたしはただ、美貴たちの悲しむ顔を見たら、自分が余計に悲しくなるのがわかっていたから、それで転校のことを隠し続けてきたのだ。いまになってそのことに気がついた。

（如月かずさ『給食アンサンブル』光村図書出版 所収「卒業メニュー」による）

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線部「美貴は……口にしなかった」とあるが、美貴が「あたし」を責めるようなことをしなかったのはなぜだと考えられるか。適当なものを選びなさい。

ア 桃からの話で転校について聞いただけであったので、真相を「あたし」からきちんと聞いて確認したいと考えたから。

イ 内緒にしていた転校のことをおばあちゃんから強引に聞きだしたので、秘密をあばいたことに申し訳なさがあったから。

ウ 美貴も転校のつらさを経験したことがあり、「あたし」が転校を伝えることができなかった気持ちも理解できたから。

〔　　〕

(2) 本文の内容に当て**はまらない**ものを選びなさい。

ア 転校のことを知った美貴が家まで訪れたことに、「あたし」はうろたえてしまった。

イ 桃からの電話の後、美貴は自分のおばあちゃんを問いつめ、「あたし」が転校することを知った。

ウ 美貴が自分のつらさをわかってくれていることを知った「あたし」は、気が緩んでほほえんだ。

〔　　〕

(3) 「あたし」は、なぜ美貴たちに転校のことを隠していたのか。「あたし」が気づいた本当の理由がわかる一文を本文中から探し、最初の五字を答えなさい。

□□□□□